



令和6(2024)年度栃木県ニホンザル管理計画モニタリング結果報告書(概要版)

1 総合評価

- ・農作物被害は、被害が多かった地域での対策が進んだことで、平成 28(2016)年度をピークに減少傾向にあったが、令和 6 (2024) 年度は前年度から微増しており、引き続き対策を進めていく必要がある。
- ・被害対策では、集落にある不要果樹の伐採や藪の刈り払い等の「環境整備」や柵の設置、追い払い等の「防護」による効果が一部で現れており、サルを寄せ付けない対策に集落全体で取り組むことが有効である。
- ・捕獲にあたっては、群の中の捕獲しやすい個体を散発的に捕獲するのではなく、群の生息範囲や加害レベル等に応じて捕獲を実施し、効果的に被害の軽減を図る必要がある。
- ・鳥獣管理士などの専門家を活用し、地域が主体となって集落の点検や対策の検討などの地域ぐるみの総合的な取組みを推進するとともに、地域住民等を対象とした研修会を開催し、生態に関する知識や防護技術等の普及を図ることが重要である。

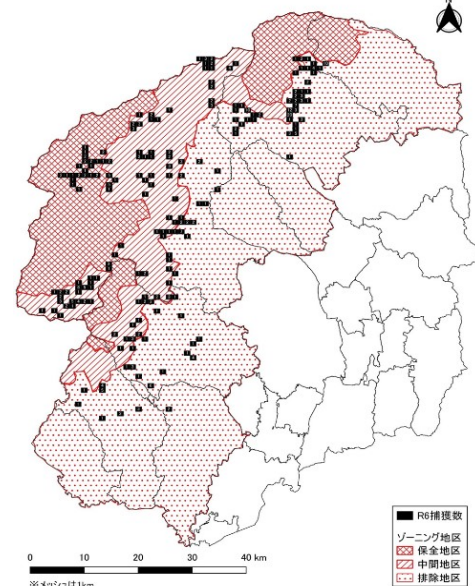
サル捕獲分布

令和 6 年度捕獲数：399 頭

2 調査の結果

(1) 捕獲数と捕獲の分布等

- ・捕獲数は近年、300 頭～600 頭強の範囲で増減を繰り返しているが、令和 6 年度は 399 頭で対前年度比 75%となった。
- ・排除地区及び中間地区での捕獲が多く、県の北部から北西部に分布していた捕獲数の多い区画が少なくなっている。
- ・オスとメスの捕獲数はほぼ同数であり、捕獲におけるオトナの割合はオスが 9 割、メスが 8 割であった。
- ・捕獲場所の環境は山林が最も多く、捕獲方法は銃器が最も多かった。



(2) 農業被害の発生状況と対策実施状況

- ・令和 6 (2024) 年度は対前年度比 120%に増加した。作物別では果樹や野菜への被害が多い。
- ・被害対策のため、県では市町が実施する追い払いやパトロール等を支援したほか、サルによる農業被害が発生している集落等に専門家である鳥獣管理士を派遣し、被害対策を支援した。(とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業：1 件、農業被害防止サポーター事業：5 件)

